

# 第5学年算数科学習指導案

日 時：2025年9月26日（金）第5校時  
場 所：雨竜町立雨竜小学校 5年1組教室  
児 童：11名  
指導者：T1 白岡 大樹  
          T2 宮田 浩文  
          T3 倉本 昌和

## 1 単元名「9. 平均」

### 2 単元について

#### ・教材観

これまでに、長さや重さ、人数や個数など、さまざまな量を表したり比べたりしてきた。それらの量を等分した1つ分の大きさを求める場合には、除法(等分除)を用いることについても理解を図ってきた。本単元では、初めに、いくつかの具体的な数量がある場面で、それらを同じ大きさに「ならず」という見方に着目させ、その処理として、全体量を求めてから等分すればよいことに気づかせる。「平均=合計÷個数」という式について「ならしたときの1つ分の大きさ」という意味と結びつけて理解させることが大切である。また、現実場面では、資料の中に0が含まれる場合や、飛び離れた値が含まれている場合などもあるので、その場合の処理のしかたについても考えていく。平均は、量の測定に伴う誤差やばらつきをならし、測定値を妥当な数値で表すためにも用いられる。実際に歩測によって長さを調べる活動を取り入れ、測定値を平均する目的や方法、よさを理解できるようにしたい。平均は、次単元「単体量あたりの大きさ」の前提となる考え方である。形式的な処理の習熟を図るだけでなく、平均の意味や活用場面の理解に重点をおいて指導にあたりたい。なお、6学年では、資料の代表値としての平均について指導する。

#### ・児童観

ばらつきのあるいくつかの数量を妥当な数値で表すという目的の場面で、多いところから少ないところへ移動して同じ大きさの数量に「ならず」という見方に着目させる。このことを具体操作とも関連させて、全部合わせて個数で等分するという方法として捉え、「平均=合計÷個数」の式にまとめる。また、このような平均の意味に着目し、具体的な場面について平均で考えてよいかどうか、どのような処理で平均を求めるのが妥当なのかなどについて、根拠をもって説明できるようにしていく。

数研式 CRT の算数の結果から、全国比①知識は97、②思考は104という結果になった。しかし、データの活用においては全国比95という結果であり、苦手としている領域である。問題文の読み取りから丁寧な指導を心がけ、問題文と表の関連性をしっかりと結びつけさせたい。ICTの活用について、2年前から本校ではロイロノートを使用し、どの教科でも使っている。シンキングツールはもちろん、共有ノートの良さに気づかせながら取り組んでいる。

#### <研究とのつながり>

視点①について、ICTを用いて思考法を3種類用意した。自分が取り組みやすいと思う思考法を選ぶことで自己調整の場を整えた。また、共有ノートを使用することで、他者参照が容易となっている。困り感を抱えた児童がヒントを持てるように活用したい。

視点②について、共有ノートを使用して個人思考することで、その後の思考の共有がシームレスに移行できる。書いたり・動かしたり・訂正したりと、考えを説明するツールとしてもICTを活用したい。

### 3 単元の目標と評価規準・指導計画

#### (1) 単元の目標

○平均の意味について理解し、測定した結果を平均する方法を考える力を身につける。また、その過程を振り返り、平均を用いるよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。

#### (2) 評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
いくつかの数量を同じ数量にならずことで妥当な数値が得られる場合は、測定値を平均すると良いことを理解し、平均を求めることができる。	概括的に捉えることに着目し、測定した結果を平均する方法について考察し、それを学習や日常生活に生かしている。	平均について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。

#### (3) 単元の指導計画

時	ねらい	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体的
1	平均の意味と求め方を理解する。	◎	○	○
2	平均の意味と求め方を理解する。	◎	○	○
3	平均した値と実際の測定値の違いを理解し、正しく平均を求めることができる。	◎	○	○
4	測定値の中に飛び離れた値が含まれる場合の平均の求め方を考え、平均の意味と求め方について理解を深める。	◎	○	○
5	調べた結果の中に0が含まれる場合の平均の求め方を考え、平均の意味と求め方について理解を深める	○	◎	○
6	日常生活の場面と関連付けて、平均の考えや求め方を活用することができる。		◎	○
7	まとめ	◎	○	○

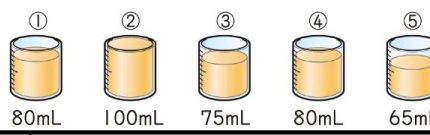
### 4 本時案 (1 / 7)

#### (1) 本時の目標

○ 平均の意味と求め方を理解する。

#### (2) 本時の展開

	児童の学習活動と内容	教師の発問 (○) や手立て (・)	視点との関わり・評価 (■)
導入 (8)	<p>○1回につかめた数を考える。</p> <p><b>【黒板】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 掴んだ数は毎回違う</li> <li>・ 多いところから少ないところに移動させると同じ数になるよ。</li> </ul> <p>○ならずこと＝平均をとる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ならず」という意味から、「ならずこと」と「平均」という言葉を知る。</li> </ul>	<p>ブロックの掴み取り (T3)</p> <p>○1回につかんだ数は何個かな？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ つかんだ個数にばらつきが生じることに気づかせる。</li> </ul> <p>数が多いところから少ないところに移すという発想を引き出す。</p> <p>○「ならず」という言葉の意味を教える。</p> <p>ならず＝平らにすること、差がないように等しくすること</p>	

	<p>ポイント いろいろな大きさを等しい大きさに「ならしたもの」を平均という。</p>	
(3)	<p>問題【葉っぱ1】 オレンジを5個しぼったら、それぞれ次の量のジュースがとれました。 オレンジ1個からとれるジュースの量は、何 mL とみればよいでしょうか。</p>  <p>① 80mL    ② 100mL    ③ 75mL    ④ 80mL    ⑤ 65mL</p> <p>○問題場面を把握する。 【モニター】 ・ジュースを飲もうとしている。 ・一番多いやつを飲みたいな。 ・全部で何 mL あるかな。</p> <p>○挿絵を見て考えたことは？</p>	
展開 (5)	<p>課題 同じ量にならず方法を考え、説明することができる。</p> <p>○見通しを持つ。【モニター】 ・ブロック掴みと同じだ。 ・数をならせばいいんだ。 ・80 mL ぐらいかな。 ・ロイロノートの使い方がわかったよ</p> <p>○考えを持つ。【タブレット】 ・多いところから少ないところに移動するとできた。 ・65 mL が一番小さいからそれより多いところを考えるとできた。 ・全部を集めて5等分にする とできた。</p> <p>○考えを共有する。【グループ】 ・○○さんの考えがわかったよ。 ・○○さんの考えをよく知りたいな。 ○答えの確認をする。【黒板】</p> <p>○ばらつきがあるので、どうしたら良いかな？ ・ブロックのつかみ取り活動を想起させ、「ならす」ということに着目させる。 ・ロイロノートを使った、ならし方の操作方法を知らせる。</p> <p>○オレンジ1個からとれるジュースの量は何 mL とみればよいか考えよう。 ・3パターンの思考法を用意する。 ・自分が考えやすいものを選んで取り組ませる。 ・友達の考えをいつでも見られるように「共有ノート」を使用する。</p> <p>○考えを聞いてきてください。 ・異なる考えの人とグループになる。 ○答えの確認をしましょう。 ・1つだいたい80 mL のジュースを作ることができる。 ○より速く計算で求めるためにはどうしたらよいか？</p> <p>【視点①】 ICTを用いたことで自己調整の場、他者参照の場を確保。</p> <p>【視点②】 ICTを用いたことで個人思考と集団思考をシームレスに移行できる。</p>	
(6)		
(6)		

	<p>○平均の求め方を式で表す。 【黒板】 ・全部を集めて5等分した方が速く答えを出せるな。</p>	<p>・全体の量を等分する考えをもとに、計算で能率的に求められる良さに気づかせる。</p>	
<p>まとめ 平均（ならした量）を求めるときは、全部合わせてから等分すると考えやすい。 平均＝合計÷個数</p>			
終末 (10)	<p>○定着問題(◇1)に取り組む。 【ノート】 ・全部で重さは252g、個数は4個だから、平均は63g</p> <p>○振り返り【タブレット】</p>	<p>○問題に取り組もう ・平均＝合計÷個数の式で求めさせる。</p> <p>○振り返りに取り組もう ・観点を絞った振り返りに取り組ませる。</p>	<p>■平均の意味と求め方を理解することができたか（知識・技能）（ノート）</p>

(3) 本時の評価

■平均の意味と求め方を理解することができたか（知識・技能）